

## 国際交流ワーキンググループ便り

---

2023年5月に開催された米国医学図書館協会（以降MLA）の年次総会（以降MLA/SLA'23）にワーキンググループの委員が参加しましたのでご報告いたします。

### MLAの創立125周年を記念する総会

MLA/SLA'23 (<https://www.mlanet.org/mla23>) は、2023年5月16日から19日にミシガン州デトロイトで開催されました。MLA/SLA'23のテーマは“Looking back, forging ahead”です。MLA会長の挨拶に「私たちが情報環境の変化と機会に対峙し続ける中で、情報の専門家として成し遂げた事とその進歩を振り返ると共に、未来とその先に待ち受ける変化と課題を見据え、過去の成功の上に立ち、サービス対象であるコミュニティに応えるにはどうやって進化し適応するかを探っています」とあります。MLAは2023年5月2日に創立125周年を迎えました。その歴史を振り返るとともに、今から25年後の2048年に図書館はどのような影響力をもっているか、その将来像を明らかにしようとしています。“ビジョン2048”を策定するチームがMLA内外の専門家へのインタビューや会員との意見交換をしています。

MLA/SLA'23の会場では125年間を振り返るブースが設置され写真や記念品が展示された他、閉会式では「125」と書かれた大きなケーキが参加者にふるまわれました。最後にお誕生日の歌を合唱しましたが、選曲はモータウンミュージックの聖地であるデトロイトにちなんでスティーヴィー・ワンダーの“Happy Birthday”でした。

### SLAとの共催

MLA/SLA'23はMLAとSLA(Special Libraries Association) の共催で開催されました。医学図書館に焦点を当てた会合以外に、図書館や情報専門家のリーダーシップやマネジメントに関する会合が開催され、分野は違っても同じ課題に直面する仲間と出会う機会が提供されました。例えば、公平な職場を作るための方針の策定、リーダーとしての公平な意思決定、多様な背景を持つ人を支援しコミュニケーションする方法、戦略的な計画の立案、説得力のあるビジョンの立て方、組織の成功にリーダーシップがどのように貢献するかといった内容です。全体で100を超える会合、交流イベント、最新の製品について学ぶ展示が提供されました。同時開催の会合も多数あり何に参加する（できる）のかを決めるのに一苦労ですが、専用のアプリが提供され、参加したい会合をクリックするだけで自分のプログラムを簡単に作ることができます。一部の会合は後から録画や資料を見ることができるため、時差があっても自分の都合に合わせて参加できたのは便利でした。

## MLAの国際交流部会・カニンハム奨学金

MLA会員の国際交流を支援する International Cooperation Caucus（以下、ICC）は、海外から参加する人を対象としたオリエンテーション、レセプション、交流ランチを主催しました。また、MLA/SLA'23に合わせて渡米したカニンハム奨学金（Cunningham Memorial International Fellowship）受給者のプログラム運営も担当しています。

カニンハム奨学金は米国とカナダ以外の健康科学分野の司書の教育を支援するために設立されました。受給者は米国で約3週間の研修を受けます。今年は2020-2023年の受給者4名（カザフスタン共和国、ザンビア共和国、トルコ共和国、ボツワナ共和国）が渡米し、MLA/SLA'23の参加に先駆けてワシントンDC、イリノイ州近辺の医学図書館（Johns Hopkins University, George Washington University, Northwestern University等）で研修を受けました。2018年の受給者であるBiliamin Popoolaさん（ナイジェリア連邦共和国）が、3週間の研修は「3週間で4年間の学位」に匹敵すると説明していましたが、研修ではMLA総会への参加・指定される会合でのプレゼンテーション実施の他、米国（カナダを含む場合もあり）の医学図書館の視察と実践的トレーニングの機会が与えられます。またMLAの主催する継続教育コースを1年間受講できます。

ICCが窓口になっていたもう一つの人的交流プログラム(International Visiting Information Professionals Program)は、担当できる人手不足を理由に終了することとなりましたが、カニンハム奨学金の研修は今後も継続の見通しです。毎年秋口に公募されます。MLAの会員であることは要件ではありません。詳しい応募条件や方法はMLAのホームページでご確認ください。<https://www.mlanet.org/page/cunningham-memorial-international-fellowship>

## 2024年のMLA総会とハイブリット開催

2024年のMLA年次総会は5/18から21にオレゴン州ポートランドで開催予定です。テーマは“Stronger together community and collaboration”。コロナ禍3年間の経験により私たちの生き方、働き方に変化があったが、私たちはより強く、賢くなったという意味が込められているそうです。正式な開催案内は8月頃に発表予定です。MLAのホームページ、MLA会員の方はMLAConnectでご確認ください。

開催方法は、引き続きハイブリッド形式になる見込みです。MLA/SLA'23は、登録者数が開会式の時点で1,573人でした。この内、現地参加を選択したのが1,100人でした。2022年の総会は現地参加とバーチャル参加が半分ずつ（現地575人、バーチャル675人）でしたから、この1年で随分と現地参加者の割合が増えました。5月初旬にWHOがCOVID-19はもはや国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態ではないと発表し、米国においてもCOVID-19の公衆衛生緊急事態の終了が告げられ、一区切りついたことが一因かと思います。しかし今後も開催方法を現地参加のみに戻すのではなく、ハイブリッド形式等、参加方法を選択できる状態が続く見込みです。

現在のMLAの目標の1つに、イベントの開催方法の再検討があります。ハイブリッド形式、録画の提供、バーチャルの参加体験をより向上できる新しい技術の導入を積極的にすすめています。これにより会員がMLAのイベントへ参加する費用負担を軽減、開催時間に合わせる時間的制約の軽減、今までMLAのイベントに参加しようと思わなかった新たな参加者の獲得、そして多様な参加者を集めようとしています。例えば、MLA/SLA'23では一部会合の録画や資料が開催後も提供されているため、日本からも時差を気にせずに参加することができました。また、バーチャル参加可能な会合では現地参加者も質問やコメントは全て専用アプリ内の機能を使うよう案内されました。これによりバーチャルで参加しても現地で参加している人の質問やコメントをリアルタイムで見ることができました。来年のMLA総会ではどのようなバーチャル参加の体験ができるのか楽しみです。

国際交流ワーキンググループ